

平成 30 年度 全国学力・学習状況調査の結果について

新発田市教育委員会

1 平均正答率 ※ 平成 29 年度から文部科学省は県、市、の正答率の数値は整数値で公表している。

	小 学 校					中 学 校				
	国語A	国語B	算数A	算数B	理科	国語A	国語B	数学A	数学B	理科
新 発 田 市	73.0	58.0	67.0	52.0	59.0	77.0	63.0	69.0	48.0	67.0
新 潟 県	72.0	57.0	66.0	51.0	60.0	77.0	62.0	67.0	47.0	66.0
全 国	70.7	54.7	63.5	51.5	60.3	76.1	61.2	66.1	46.9	66.1
県平均との差	1.0	1.0	1.0	1.0	-1.0	0.0	1.0	2.0	1.0	1.0
全国平均との差	2.3	3.3	3.5	0.5	-1.3	0.9	1.8	2.9	1.1	0.9

(1) 小学校の特徴

- ① 国語A B、算数A Bにおいて、新発田市の平均正答率は県平均と同等であり、全国平均を上回っている。理科は前回調査（平成 27 年度）では全国比+2ポイントであったが、今回の調査では県、全国の平均を1ポイント程度下回り、全国平均以上の学校数とそれ以下の学校数がほぼ同数であった。
- ② 新発田市の国語A B、算数Aの平均は全国平均に比べ2.3~3.5ポイント高く、この傾向は昨年と同様である。

(2) 中学校の特徴

- ① 全ての種目において、新発田市の平均正答率は県平均と同等または上回っており、全国平均を全て上回っている。特に数学Aは2ポイント以上、理科についても、前回調査（平成 27 年度）は全国比-3ポイントであったが、今回は約+1ポイントで、改善が図られている。
- ② 昨年度と比較すると、全ての種目において県平均及び全国平均と同等または上回り、昨年よりも上回り幅が大きくなっており、昨年度に引き続き大きな改善が見られた。

(3) 学校別平均正答率

- ① 小学校では5種目の平均正答率の合計で、概ね7割の学校が全国平均以上または、同等であった。全国平均を上回る学校数が昨年度より増えている。
- ② 中学校では5種目の平均正答率の合計で、8割の学校が全国平均以上または同等であった。全国平均を上回る学校数が昨年度より増えている。
- ③ 小学校では全国平均よりも10ポイント以上低い学校数が昨年度よりも減少し、10ポイント以上高い学校数も増えている。中学校では、全国平均よりも10ポイント以上低い学校はなかった。10ポイント以上高い学校数には変化がなかった。このことから、小中共に正答率の底上げが図られていることが分かる。

2 各設問に見られる傾向（学力調査から）

(1) 全国平均と同等又は、上回った設問数

	小 学 校					中 学 校				
	国語A	国語B	算数A	算数B	理科	国語A	国語B	数学A	数学B	理科
総 設 問 数	12	8	14	10	16	32	9	36	14	27
全国平均と同等又は上回った設問数	11	8	12	5	9	27	9	31	12	19

(2) 小学校の傾向

- ① 国語A Bでは、全国平均を大きく下回る（-5ポイント以下）設問はなく昨年度に引き続き全般的に定着が図られている。国語Aで全国平均に及ばなかった設問は、「登場人物の心情について、情景描写を基に捉える」-2.2ポイントであった。全国平均とは同等であったが、県平均との比較で「相手や場面に応じて適切に敬語を使う」が-5.0ポイントであった。

- ② 算数A Bでは、全国平均を大きく下回る(−5ポイント以下)設問はなく全般的に定着が図られている。算数Aで全国平均に及ばなかった設問は、「針金0.2mの重さと針金0.1mの重さを書く」−2.5ポイント、「針金0.4mと、0.4mの重さの60gと、1mの重さが、それぞれ数直線上のどこに当てはまるかを選ぶ」−3.1ポイント、算数Bでは、「合同な正三角形で敷き詰められた模様の中から見いだすことができる図形として、正しいものを選ぶ」−3.6ポイント、「1つの事柄について表した棒グラフと帯グラフから読み取ることができることをまとめた文章に当てはまるものを選ぶ」−3.1ポイント、「横の長さが7mの黒板に輪かざりをつけるために必要な折り紙の枚数が、100枚あれば足りるわけを書く」−2.6ポイントであった。
- ③ 理科では、全体として全国平均を1.3ポイント下回っている。全国平均を5ポイント以上下回る設問もあり、学習指導の改善を図る必要がある。全国平均に及ばなかった設問のうち「科学的な思考・表現」に関する設問は、「人の腕が曲がる仕組みについて、示された模型を使って説明できる内容を選ぶ」−2.9ポイント、「上流側の雲の様子や雨のふっている所と下流側の川の水位の変化から、上流側の天気と下流側の水位の関係について言えることを選ぶ」−2.2、「回路を流れる電流の向きと大きさについて、実験結果から考え直した内容を選ぶ」−6.1ポイント、「観察・実験の技能」に関する設問は、「ろ過後の溶液に砂が混じっている状況に着目しながら、誤った操作に気付き、適切に操作する方法を選ぶ」−2.7ポイント、「自然事象についての知識・理解」に関する設問は、「流されてきた土や石を積もらせる水の働きを表す言葉を選ぶ」−6.8であった。

(3) 中学校の傾向

- ① 国語A問題は全国平均を下回る問題数は大きく減少したものの、全国平均を大きく下回る(−5ポイント以下)の問題が2問あった。「慣用句『心を打たれた』を文末に用いた文章を書く」−5.1ポイント、「行書の基礎的な書き方を理解して、行書作品の助言として適切なものを選択する」−8.5ポイントであった。B問題は全ての問題で全国平均以上または同等の結果であった。
- ② 数学では、全国平均を大きく下回る(−5ポイント以下)設問は数学Aで2問あった。その設問は「絶対値が6である数を書く」−9.3ポイント、「ひし形が線対称な図形か点対称な図形か選ぶ」−5.7ポイントであった。全国平均に及ばなかった主な設問は、数学Aでは「半円の直径を軸として回転させてできる立体の名称を書く」−2ポイント、「対頂角は等しいことの証明について正しい記述を選ぶ」−1.6ポイント、「大小2つのさいころを同時に投げるとき、和が8になる確率を求める」−1.6ポイントであり、数学Bでは「S社の団体料金が通常料金の何%引きになっているかを求める式を書く」−3.5ポイント、「通常料金をaとしたときの団体料金の10人分が通常料金の何人分にあたるかを求める計算からわかることを選び、その理由を説明する」−1.9ポイントであった。
- ③ 理科では、全国平均を大きく下回る(−5ポイント以下)設問が2問あった。全国平均に及ばなかった設問のうち、「科学的な思考・表現」に関する設問は、「光の反射を利用して半透明な板に文字を表示したとき、CPの画面として適切なものを選ぶ」−3.1ポイント、「テレプロンプターの適切な光の道筋を選ぶ」−1.1ポイント、「軟体動物2つの組み合わせを選ぶ」−5ポイント、「図を参考にして予想される風向を選ぶ」−5.4ポイント、「密閉した容器内の湿度が上がる原因で、水蒸気が植物から出る以外の原因を1つ書く」−2ポイントであった。「自然事象についての知識・理解」に関する設問は、「太平洋高気圧(小笠原気団)の特徴を選ぶ」−4.0ポイント、「地震の揺れの強さとS波による揺れをそれぞれ何というかを選ぶ」−3.1ポイント、「アルミニウムの原子の記号を選ぶ」−2ポイントであった。

(4) 授業との関連(学習状況調査から)

- ① 算数・数学に関する内容について(算数、理科に関する内容で調査が実施された)質問紙での算数・数学に関する項目に対して肯定的に回答した児童生徒の割合は、小学校・中学校ともに全ての項目で全国平均を上回った。主な設問は以下のとおりである。「算数・数

学の勉強は好きですか」(小・66.5ポイント 中・62ポイント)「算数・数学の勉強は大切だと思いますか」(小・93.4ポイント 中・88.4ポイント)「算数・数学の授業の内容はよく分かりますか」(小・86.1ポイント 中・77.1ポイント)「算数・数学の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか」(小・84.2ポイント 中・77.2ポイント)であった。小学校・中学校ともに、ほとんどの項目で肯定的な回答をした児童生徒ほど平均正答率が高くなる傾向が見られる。

② 理科に関する内容について

質問紙での理科に関する項目に対して肯定的に回答した児童生徒の割合は、小学校・中学校ともに、ほとんどの項目で全国平均を上回った。主な設問は以下のとおりである。「理科は好きですか」(小・90.1ポイント 中・66.3ポイント)「理科の勉強は大切だと思いますか」(小・91.7ポイント 中・77.6ポイント)「理科の授業の内容はよく分かりますか」(小・93.6ポイント 中・73.2ポイント)「自然の中で遊んだことや自然観察したことがありますか」(小・87.1ポイント 中・80.4ポイント)「理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか」(小・70.4ポイント 中・50.5ポイント)「理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」(小・76.7ポイント 中・61.8ポイント)「理科の授業で、自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしていますか」(小・58.5ポイント 中・49.4ポイント)「理科の授業では、理科室で観察や実験をどのくらい行いましたか」(小・92.7ポイント 中93.1ポイント)など、中学校は、14項目中13項目で、小学校は、16項目中15項目で全国平均を上回った。唯一全国平均を下回った項目は「将来、理科や科学技術に関する職業に就きたいと思いますか」(小・25.9ポイント 中・19ポイント)であった。肯定的な回答をした児童・生徒ほど平均正答率が概ね高くなる傾向が見られるが、全国平均を下回った「将来、理科や科学技術に関する職業に就きたいと思いますか」については肯定的な回答と平均正答率との相関性は見られなかった。

理科に対する関心・意欲は全国平均と比べて高いことは良好と言えるが、平均正答率と相関していないことから、今後は、例えば実験後のまとめの仕方など、学習内容の定着に向けた授業改善に取り組む必要がある。

③ 授業の進め方について

小学校・中学校ともに以下の3つの項目に対して肯定的に回答した児童生徒の割合は、全国平均を上回った。「課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」(小・84ポイント 中・83.7ポイント)「自分の考えを発表する機会が、うまく伝わるように工夫して発表していた」(小・67.6ポイント 中・65.8ポイント)「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」(小・85.8ポイント 中・82.2ポイント)であった。いずれの項目においても、肯定的な回答をした児童生徒ほど平均正答率が高くなる傾向が見られる。

(5) 自己有用感との関連(学習状況調査から)

- ① 小学校・中学校ともに、「自分には、よいところがあると思いますか」に肯定的な回答をした児童・生徒ほど平均正答率が高くなる傾向が見られる。
- ② 小学校では、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」に肯定的な回答をした児童ほど平均正答率が高くなる傾向がみられる。中学校では、国語と理科で肯定的な回答をした生徒ほど、平均正答率が高いが、数学では否定的な回答をした生徒の平均正答率が高いなど、先生に認められていることと、平均正答率との相関関係がはっきりしない面もある。
- ③ 小学校・中学校ともに「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に肯定的な回答をした児童・生徒は、否定的な回答をした児童生徒よりも、平均正答率が各教科で9ポイントから23ポイントも高いなど、正答率でかなり高くなる傾向が見られる。
- ④ 小学校・中学校ともに「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることが」に肯定的な回答をした児童・生徒ほど平均正答率が高くなる傾向が見られる。

これらの結果を踏まえると、小学校では児童を大いに褒め、認めることが大切であり、中学校では生徒の学びに対して、結果だけではなく過程を評価し、認めることが大切であることが分かる。全校体制で意図的・計画的に、児童・生徒の自己有用感を高めていく取組が重要であると言える。

(6) 家庭学習との関連（学習状況調査から）

- ① 小学校では、平日の家庭学習の時間が1時間以上の児童ほど平均正答率が高くなる傾向が顕著に見られる。一方、中学校では、平日の家庭学習の時間による生徒の平均正答率の差があまり見られない。
- ② 小学校・中学校ともに、家で学校の授業の予習・復習をしている児童生徒ほど平均正答率が高くなる傾向が見られる。
- ③ 平日の家庭学習の時間が1時間未満の児童生徒の割合は、小学校で18.5ポイント（昨年度比-5.7ポイント）、中学校では27ポイント（同-0.7ポイント）であった。その内、「30分未満」と「全くしない」を合計した児童生徒の割合は小学校では2.3ポイント（同-1.2ポイント）、中学校では6.6ポイント（同-2.7ポイント）であった。1時間以上の家庭学習に取り組む児童生徒の割合が、昨年度より増加している。
- ④ 小学校・中学校共に、家庭学習の習慣化が図られてきている。今後も家庭学習時間を確保するとともに、授業内容との関連を図るなど、児童生徒が意欲をもって主体的に取り組めるよう指導を継続していく必要がある。

3 成果と課題

(1) 小学校について

- ① 国語A・B、算数A・B問題ともに全国平均を上回り学習の定着が安定して図られている。各校の新発田市授業スタンダードに基づいた授業改善や各種学力調査結果分析に基づいた取組の成果である。一方で、算数B問題では全国平均を下回る設問が複数あることが継続しており、引き続き改善に取り組む必要がある。具体的には、棒グラフと帯グラフから読みとれることを適切に判断したり、折り紙が100枚あれば足りる理由を示された数量を根拠に答えたりするなど、日常生活の事象を数量と関連付け、根拠を明確にして記述する力を高めたい。
- ② 理科の指導改善に向けて、基本的な用語や知識・理解の定着に努める必要がある。同時に実験結果を基に「関連付けて分析する」「より妥当な考えに改善する」「見通しを伴って解決する」といったことに課題が見られる。観察・実験結果を整理、分析して考察を記述させたり、結果を基に妥当な考えに見直して記述させたりすることに努める必要がある。

(2) 中学校について

- ① 中学校の結果は年々上昇傾向にあるが、今年度全ての種目において、全国平均と同等、または上回ったことは大きな成果である。小学校と同様に、各校において新発田市授業スタンダードに基づいた授業改善や各種学力調査結果に基づいた取組の成果である。一方で、国語A、数学A、理科に全国平均を下回る設問が一定数存在する。「学ぶ楽しさ」「分かる喜び」を味わわせる中で、基礎・基本の確実な定着を図ることが重要である。
- ② 国語では、書こうとする文のまとめや順序を考えて文章を構成したり、語句の意味を理解して文脈の中で正しく使ったりすること、行書の基礎的な書き方に課題がある。数学では、絶対値の意味理解の問題、図形の問題や図形の証明の必要性和意味理解の問題、確率を求める問題に課題がある。また、数学的な結果を事象に即して解釈し、成り立つ事柄を判断し、その理由を数学的な表現を用いて説明することに課題がある。理科では、実験や観察などの考察結果について検討して改善したり、自然の事物・現象に含まれる要因を抽出して整理して条件を制御して実験を計画したりすることに課題がある。

(3) 学習状況調査から

①授業の進め方について肯定的である②自己有用感が高い③家で予習復習に取り組んでいる。以上の児童生徒の正答率は高い傾向にあった。これらの内容は新発田市学校教育の指針と重なる内容であり、今後も指針に沿った教育活動の推進に取り組むことが大切である。